

三陸の海を放射能から守る

岩手の会

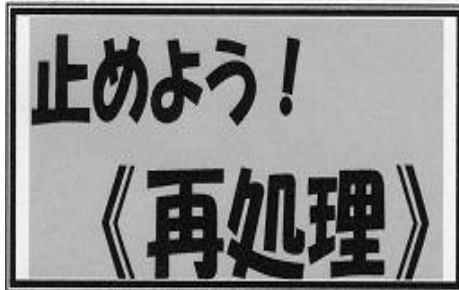
郵便振替 02240-5-102650

《再処理 / 岩手の環境》

http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm

《まった再処理分庫》

http://briefcase.yahoo.co.jp/k\_imag



《天恵の海》

2009(平成21)年

8月 21日

第75号

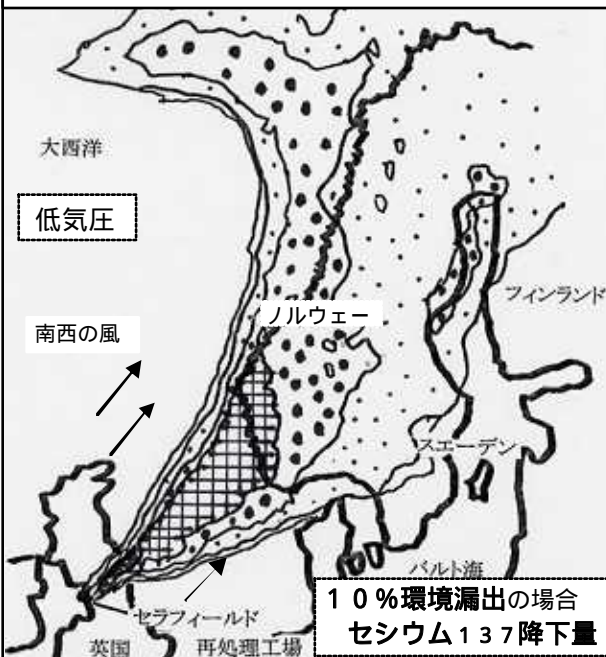
編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636

# 英国再処理工場で 高レベル廃液放出事故が起こると ノルウェー南部は全員避難・閉鎖区域の可能性

英国再処理工場廃液漏れ事故想定図

秋 10 月の典型的気象で予測



10%環境漏出の場合  
セシウム137降下量

セシウム137(万Bq/m<sup>2</sup>以上) チェルノブイリ区分相当

①	1000	没収・閉鎖地区
②	100	没収・閉鎖地区と永久管理地区
③	10	永久管理・定期管理・汚染地区
④	1	汚染地区(3.7以上)
⑤	0.1	



ノルウェー政府  
放射線防護局

## アセスメント公表

ノルウェー政府は英国セラフィールド再処理工場で高レベル放射性廃液が環境に漏れ出す事故が発生した場合を想定し環境影響評価(アセスメント)を行い発表しました。

セラフィールド工場の貯蔵タンクには約一千立方メートルの高レベル放射性廃液が貯蔵されていますが、その「1%」あるいは「0%」が漏れた場合を想定し、イギリスからの風が吹くことの多い10月の典型的気象を当てはめて、放射性ガスの移動状況や降下量を予想しました。

想定はノルウェー干気象研究所が昨年10月に実際に観測したデータに基づき、煙、霧、雲状の放射性ガスや微粒子がどのように大気中を流れ、降下するのか調べました。

北海上に低気圧があり、イギリスからノルウェーに向かって南西の風が吹く場合、わずかに9時間でノルウェー上空に達す

高レベル廃液

# セラフィールド工場には約一千立方メートル貯蔵 六ヶ所工場タンクにも約二四〇立方メートル

わずか九時間で  
ノルウェーに到達

約十五時間で沸騰  
高レベル放射性廃液はその自己崩壊熱のために常に冷やし、かきまわし続けなければならない。もしも停電などでそれが出来なくなれば約十五時間で沸騰し始める。さらに強い放射線が水を分解し水素を発生させるので水素も絶えず除去し続けなければ爆発する。電源喪失事故が一番恐ろしい。

高レベル  
放射性廃液



ことがわかりました。

ノルウェー干気象研究所

全員避難

想定はセシウム137でなされました。放射性廃液の主要な要素であり、その被害についてよく知られた放射性物質であるからです。貯蔵されている高レベル廃液の「10%」が環境に漏れ出した場合の解析の結果は上の地図のようになります。最も苛酷な被害を受けるのは工場のあるイギリス国内ですが、ノルウェー南部の広範囲が汚染ラングーの一平方メートルあたり一〇

○万ベクトル(二七キヨリ)〜一〇〇万ベクトル(二七〇キヨリ)のセントウム汚染範囲になります。これはチェルノブイリ事故の浸収/閉鎖地域「四〇キヨリ以上」に該当し、人の住めない強制移住地となることを意味します。その他の地域も「汚染ラング」の地域となり、ほぼノルウエー全土がチェルノブイリ事故の汚染区域(放射線管理区域)に相当することとなります。

液体状の貯蔵を止めよ  
以上の考察から同報告書は、英国工場の高レベル放射性廃液貯蔵施設での事故発生リスクを少しでも減少させるために、不断の監視と定期的な評価が必要である」と述べた。廃液を安全な形で閉じこめるために速やかにガラス固化し可能な限り液体状のものを減少させるべきだと述べています。

日本政府も、環境影響評価を行い発表せよ  
六ヶ所再処理工場には「高レベル放射性廃液」が二〇〇六年以来のアクテイク試験により約二四〇立方メートル溜まっています。

世界でも有数な地震大国日本「の高レベル廃液」は、地震がないとされるイギリス以上に危険な状態にあります。直下活断層説が指摘される中、「ガラス固化炉」は停止状態で廃液のまま貯蔵されています。日本政府もノルウエー政府を見習い高レベル廃液の環境影響評価を行うべきです。

### 岩手の会

永田文夫さんの話

四月にノルウエー政府の英文報告書を手し翻訳してみました。私達が憂慮している同じ問題を外国の政府が同様に心配していることを知り意を強くしました。このかけがえのない美しい国で高レベル廃液の事故を絶対におこしてはなりません。みんなで声を挙げ高レベル廃液の絶対安全な管理を求めよう。日本政府を動かしましょう。



\*「報告書」全文は、英文・和訳文(解説付き)が、ともに「岩手の会」ホームページ「岩手の環境/再処理」に掲載されています。

## 固化セルの復旧と高レベル廃液の管理 心配される作業員の被ばく

日本原燃は、高レベル廃液が未回収となっているガラス固化セルの復旧のために四苦八苦の状態です。再開するためには、放射線で故障したセル内の遠隔操作機械(マニピュレーター)をまず修理する必要があります。最後に人間が放射能まみれの機械に接近し、作業を行わなければならないと思われまます。さらに高レベル廃液のぬかりない管理も必要で、作業に従事する技師・労働者の被ばくが懸念されます。(尚)

### マニピュレーター復旧

セル内の作業に必要なマニピュレーターについて青森の新聞に報せられています。日本原燃は八月十三日、廃液洗浄に必要なハワーマニピュレーターが三ヶ月弱ぶりに復旧したと発表しました。今後マニピュレーターを使ってほかの機器の点検等をした上で、洗浄を再開させる。

「プリー東北」  
八月十四日(記事要旨)

### セル内の洗浄作業

洗浄作業の方法や問題点についても青森の新聞で報道されています。六ヶ所工場高レベル放射性廃液漏れのセル(フクリ)で密閉した部屋(内)

を奪つ危険もある」と語っている。  
東奥日報  
八月十四日(記事要旨)

三件の線量計未着用  
で日本原燃へ指示文書  
原子力 安全保安院

原子力安全・保安院は日本原燃に対して以下三件の線量計未着用「事例」について原因や対策を報告するよう指示しました。

### 個人線量計を着用せず

七月十六日、低レベル廃棄物管理建屋で、建屋工「テイリテイ」設備定期点検作業において協力会社作業員一名が誤って個人線量計を着用せず入域していた。

### 未登録の作業員が

放射線管理区域へ  
八月七日、第一ガラス固化体貯蔵建屋棟において、出入管理装置の点検に伴う代替処置として、出入管理台帳による入域管理を行っていたところ、当該建屋の作業員名簿へ登録準備中の協力会社作業員一名が、管理区域へ入域したことが確認された。電気設備保守点検のため入域であった。

### 原燃社員、警報つきポケット

八月十一日、高レベル廃液ガラス固化建屋の放射線管理区域内における定期的な表面密度検査のため管理区域に入域した原燃社員一名が、線量評価に用いる個人線量計(ガラスバッグ)は着用していたものの作業管理のために着用することとしている警報付ポケット線量計(PPD)を着用せず約一時間入域していたことを確認。入域手続きの時に置き忘れたのが原因であった。

### 携帯用個人線量計



右：アラームメーター(セツトした線量に達すると警報ブザーが鳴る)  
中：フィルムバッジとTLD(外部被ばく計測器)  
左：ポケット線量計(外部被ばく計測器)

出典 堀江邦夫著  
『原発ジブシー』 七九頁  
現代書館一九七九年刊  
講談社文庫一九八四年再刊

### ト線量計を付け忘れ

八月十一日、高レベル廃液ガラス固化建屋の放射線管理区域内における定期的な表面密度検査のため管理区域に入域した原燃社員一名が、線量評価に用いる個人線量計(ガラスバッグ)は着用していたものの作業管理のために着用することとしている警報付ポケット線量計(PPD)を着用せず約一時間入域していたことを確認。入域手続きの時に置き忘れたのが原因であった。  
日本原燃ホームページ  
八月十一日(記事要旨)